

## 人を対象とする実験・調査への参加を成績評価に反映する際のガイドライン

本ガイドラインは、本学専任教育職員を対象として、倫理審査申請時の留意点を示すものである。

### ① 教育目的であることの明記

- 実験・調査参加により学ぶことが出来る内容が、当該の授業内容の理解を促進するという根拠を倫理審査申請の際に文書で示し、審査者が参照できるようにする。特に、総合教養科目を含む全学共通カリキュラムの科目で募集を行う場合は、教養としての〇〇学(例:教養としての心理学)の理解に役立つものであることを文書で示す。
- 一つの案として、実験・調査結果を授業内でフィードバックすることが望ましい。

### ② 平常点の一部として取り扱う

- 今現在、平常点をどのように運用するかについては各教員の裁量に委ねられている(例:質問に来たとか、研究会に参加した、などの授業時間外の積極的活動)。この平常点の範囲内(つまり各教員の裁量内)で加点を行う。よって、100点を超える追加点扱いとはしない。
- 関連して、実験・調査参加を断っても減点対象としない。

### ③ 自発性の確保 (単位取得の条件としない)

- 成績評価に反映される実験・調査参加は強制とならないよう、参加募集用紙に明記する。該当する参加募集用紙は倫理審査の際に審査者が参照できるようにする。

### ④ 代替案の確保

- 成績評価に反映される実験・調査参加は、同価値の成績評価反映が可能となる代替案(例:課外学習レポート)と共に提示されなければならない。この代替案も上記③の実験・調査参加募集用紙に明記し、倫理審査の際に参照できるようにする。よって、1つの実験・調査を複数の授業における課題とする場合は、授業毎に異なる参加募集用紙を倫理審査時に用意する。
- 実験・調査への参加をお願いするというよりも、平常点を積み重ねるための自由選択肢を提供するのみとし、その中に実験・調査参加も選択肢として含まれているという形式とする。

### ⑤ 実験・調査参加時間帯

- 実験・調査参加をしない選択をした者の授業時間を保障するため、今回提案の対

象とする実験・調査は授業内で行わない。ただし、授業プログラムに含まれる実験・調査(心理学実験演習など)を研究目的に利用する場合は、それは授業活動の一環であり倫理審査委員会による倫理審査の対象となっていないため、本ガイドラインの対象ではない。

#### ⑥ 公平な機会の確保

- 原則として、希望する履修学生全員が、当該の実験・調査に参加できるものではない。
- もし、参加希望の時間帯が集中するなどして、参加できない学生が出た場合は、代替課題に取り組むことができるのに十分な期間(日数)がある時点(小レポートなら締切の2~3週間前までなど)までにそのことを該当者に知らせる。また、この点については、参加者募集の際にも説明する。

#### ⑦ 実験・調査結果を研究用に提供しない権利の確保

- 通常の実験・調査のインフォームドコンセントと同様に、データを研究目的に使用してよいかどうか(データを取り下げるかどうか)についての意思を参加者から確認する。つまり、成績評価反映のために実験・調査に参加するものの、データは研究目的に使用しないというケースがあり得るようにする。

#### ⑧ 成績評価以外の参加に対するお礼

- 当該の授業履修学生による実験・調査への参加はあくまで学び目的とし、それ以外の参加に対するお礼(謝金など)の選択肢は提供しないこととする。

#### ⑨ 実験参加を途中で取りやめる権利の確保

- 通常の実験・調査と同様に、参加者はいついかなる時でも実験・調査参加を中止することが出来る。その場合の参加に対しては、成績評価反映とはしない(最後まで実施しないと授業理解に役立つとは考えられないため)。その場合は、当該実験・調査に相当する実験・調査における途中辞退の場合の参加に対するお礼の基準を適用する。この旨は、実験・調査参加募集用紙に明記する。
- ただし、当該の領域において途中辞退率が比較的高いと考えられる手続きの場合は別とする。例えば、質問紙調査に参加し、その後、希望者のみ臨床面接調査に進むといった形式の場合、臨床面接のみ辞退するケースは決して少なくない。こういったケースは、「質問紙調査実施で5点・面接まで参加すると10点」等といった場合分けを事前に明記し、参加者募集用紙に明記する。また、途中辞退によって得られなかった平常点については、上記④の代替案で埋められるように配慮する。

#### ⑩ 授業履修学生以外の実験・調査参加

- 当該の実験・調査参加が授業履修学生以外に開かれる場合は、それらの学生に対する参加に対するお礼はこれまで通り各研究者が決め、その内容は倫理審査の対象となる。授業履修学生が両方の応募枠に応募できるかどうかについては、各研究におけるデータの取り扱いと関連するため、各研究者による個別の判断にゆだねる。
- 授業履修学生への募集と授業履修学生以外への募集が同時期に行われる場合、成績かその他のお礼（例：謝金）かといった対応付けが顕在化しないような募集の仕方に注意を払う。

#### ⑪ 個人情報の安全な取り扱い

- 成績評価反映を可能にするためには、学生の個人情報(学生番号など)を記録する必要がある。当該の個人情報が正しく保管されるような手続きを、倫理申請の際に文書で示す。
- このことは、**web** 調査を行う際に特に留意する。つまり、成績評価に反映するための個人情報を適切に収集保管するための手続きは、研究者本人が責任をもって考案し、倫理申請の際に文書で示す。なお、本学における個人情報の取り扱いについても遵守すること。
- 特に、調査系の研究においては、出身地や家族構成などの個人情報が比較的多く集められる可能性がある。それらの個人情報は、成績評価反映に必要な個人情報とは連結不可能な方法で保管する。その手続きについても、倫理申請の際に文書で示す。
- 「授業評価資料の保管期間」に関する本学の決まりに基づき、個人情報(学生番号など)は授業終了後1年間保存する。

#### ⑫ 記録ミスを防ぐ取り組み

- 記録ミスの問題を防ぐための取り組み（例：本学の「レポート提出票」のような半券を用意するなど）を倫理申請の際に文書で示す。

#### ⑬ 授業担当者による説明責任

- 授業担当者が、当該の実験・調査の研究代表者・研究分担者・共同研究者・卒論生の指導教員であるなど、研究に関する説明責任を果たせる立場にいる場合のみ、実験・調査参加の成績評価反映を認める。
- 当該の授業担当者は本学専任教員のみとする。

⑭ 該当する授業の明記

- 成績評価に反映する授業名は倫理審査申請時に明記する。授業の追加は、その都度、計画変更届で対応する。

⑮ シラバスへの明記

- 平常点に実験・調査参加を含む場合は、その旨をシラバスに明記する。また、代替案も提示されることを明記する。

⑯ 実験・調査参加への真剣さ・積極性・出来栄の評価

- 学び目的であるため、真剣、積極的な実験・調査参加となるように確認することが望ましい。実際にどのように確認するかは各教員に任せる。
  - 例：教示を守っていない反応(例：速すぎる・常に同じボタンを押している、正解率が低すぎる、等)が続いた場合に警告を出せる実験プログラムにする。
  - 例：配布型・web型の質問紙調査であれば、最初に折半法信頼性等を計算することで各参加者が適当な反応をしていないかどうかのみ評価した後、質問紙結果と個人情報を分割して管理する、といった方法も挙げられる。

⑰ 適切な実施が行われているかをモニタリングする仕組み

- 参加募集用紙には以下の斜体の文言を付け足すこととする。

*この実験・調査は、倫理審査委員会によって承認されています{番号}。  
研究内容に関することは以下にご連絡ください。*

*\*ここに研究者の連絡先を記す*

*研究内容以外のこと、例えば、研究参加者としての権利や情報、研究者以外の方と苦情などをお話したい場合は、以下にご連絡ください。*

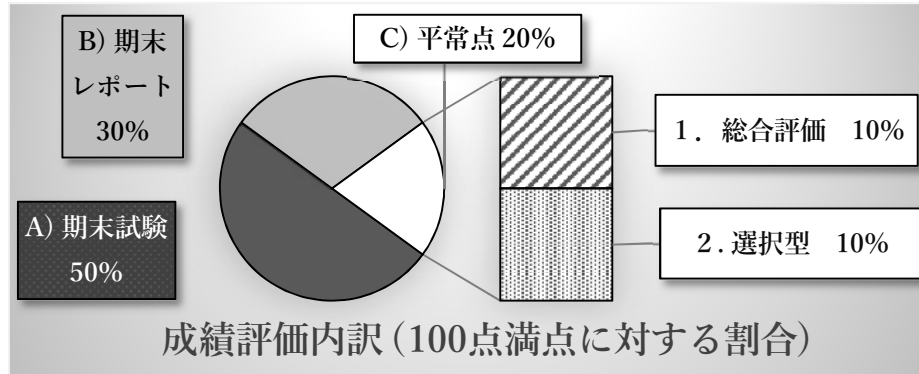
東京女子大学 人を対象とする研究に関する倫理審査委員会  
(窓口：教育研究支援課内 電話：03-5382-6451)

## 授業配布資料（記載例）

20XX年度 {授業名} 平常点の説明

{授業担当者氏名}

シラバス記載の通り、この授業の成績評価の内訳は以下の図のようになっています。



C)の平常点(20%)の内訳は、以下の2つに分けられます。

1. 【総合評価】の10%は、出席や授業内活動への参加、授業内試験などから総合的に評価します。
2. 【選択型】の10%については、以下の(ア)・(イ)・(ウ)から1つを各自が自由に選択できます。

**(ア) 授業内でアナウンスされる小レポート課題 (注:図のBとは別的小レポート課題)**

**(イ) XX月YY日に実施される研究会への参加と小レポート提出**

**(ウ) ○○が研究責任者となっている○○実験・調査への参加 (本日/後日募集チラシを配布)**

- 上記(ア)・(イ)・(ウ)のいずれも、授業の理解を深めるための内容となっています。
- また、(ア)・(イ)・(ウ)は、その課題負担に大きな差が無いように配慮されています。
- (ア)・(イ)・(ウ)いずれも、出来栄え・真剣さ・積極性などに応じて点数を決定します。

上記(ウ)の実験・調査参加について、以下に補足説明をします。

- 実験・調査への参加は自由であり、断っても不利益はありません。また、いつでも参加を取りやめることが出来ます。これらの場合、(ア)ないし(イ)を満たすことで選択型平常点を得ることが出来ます。
- 実験・調査は授業時間外に行われます。参加希望が集中した場合は、参加できない場合もあります。その場合は、(ア)ないし(イ)に余裕をもって取り組める期日までにアナウンスします。
- 実験・調査参加は学び目的であり、平常点以外の参加対価 (例:謝金)はありません。
- 自分の実験結果を教員の研究に提供するかどうかは自由に選べます。結果を提供しないことを選択しても、実験・調査に最後まで参加することで、選択型の平常点が与えられます。
- 成績評価への反映のため、実験・調査参加者の名前と学生番号を記録します。これらの個人を特定する情報と、実験・調査結果が対応づけられることはありません。
- この実験・調査は、倫理審査委員会によって承認されています{番号}。研究内容に関することは以下の研究者宛にご連絡ください。

\*ここに研究者の連絡先を記す

- 研究内容以外のこと、例えば、研究参加者としての権利や情報、研究者以外の方と苦情などをお話したい場合は、以下にご連絡ください。

東京女子大学人を対象とする研究に関する倫理審査委員会(窓口:教育研究支援課内 電話:03-5382-6451)